

## 1 東久留米市の紹介

なだらかな多摩丘陵の北部に位置する東久留米市は、都心から北西へ約 24 km の武蔵野台地のほぼ中央にあり、地下水が豊富で、市内の湧水を水源とする一級河川の「黒目川」・「落合川」がゆるやかに東流し、立野川など数条の小流を集めて都県境で合流しています。悠久の時を経て今も変わらず川に沿って、豊かな自然に恵まれたこの地には原始や古代の遺跡も数多く残されています。

平成 23 年 4 月 1 日現在人口は 114,621 人、面積 12.92 k m<sup>2</sup>です。

大正 4 年武蔵野鉄道（現西武池袋線）が開通し、「東久留米駅」が開設されてから、人々の往来が盛んになり、生産物などの物資の流通が増大しました。

昭和 31 年町制施行の後、ひばりが丘団地、東久留米団地、滝山団地、久留米西団地などの大規模団地が次々に建設され、人口が急増し、昭和 45 年には日本で最も人口の多い町となりました。【昭和 45 年時点で約 78,000 人】

昭和 45 年 10 月に市制施行となり、その後も、都内のベッドタウンとして人口増加を続けつつ、市内の随所に武蔵野の面影（緑地保全地域（7 か所）や屋敷林等）を残し、現在に至っています。

特に落合川と南沢湧水群は湧き水を源とする清流に恵まれ、水量もたいへん豊かなことから、平成 20 年には環境省の「平成の名水百選」に選ばれています。全国百の名水に東京都では「落合川と南沢湧水群」がただ一か所、選定されましたことはたいへん誇らしいことですし、名水にふさわしい清流がいまでも滔々（とうとう）と流れています。

昨年 12 月には秋篠宮様のご臨席のもと、「湧水保全フォーラム全国大会 in ひがしくるめ」を開催し、全国から総勢 370 人が集まり、湧水保全に関する講演や各地での取り組みの紹介などを行いました。

また、今年の 6 月に開催した東久留米市環境フェスティバルにおいて、「湧水・清流保全都市宣言」を行い、今後もこの清らかな湧水・清流を次世代に引き継ぐことを宣言し、関係者はじめ市民の皆様にご協力をお願いしたところでございます。

観光資源として、市内 5 つのお寺には七福神が祭られており、それをめぐる「東久留米七福神めぐり」が毎年 1 月に西武鉄道と東久留米市などが協力して開催しています。一つの市の中で七福神すべてに会えるというのは大変めずらしいということで、お正月の冷え込む時期ではありますが、「東久留米七福神め

ぐり」には市内外から 3,000 名を超える多くの参加者があり、新年の開運祈願を楽しんでおります。

食べ物にも PR したいことがあります。きれいな水と豊かな土壌に恵まれた東久留米市では野菜や花の栽培等農業が盛んで、小麦をはじめ新たな東久留米ブランドの特産品が生まれています。特に市内だけで育てられている「柳久保小麦」は粘りが強く、香りや風味に優れていることが特徴で、多摩地域の伝統食であるうどんや、まんじゅう、かりんとうなどに利用され、市を代表する特産品として平成 18 年より市内の小売店で販売され、大変好評を得ており、うどんの第 2 弾として、今年の 7 月には市内産の小麦（農林 61 号）を使用した「乾麺 東久留米うどん」の販売を開始し、もちもち感が好評を呼んでいます。

また、梅の生産量も多く（多摩地域で 6 位）、梅を原料に使いました梅ワイン、商品名「東久留米からの梅だより、梅うふふ」を平成 18 年に開発・販売し、第 2 弾として平成 22 年には、梅酒「ひがしくるめの梅酒さん」も発売されております。この梅酒は日本酒をベースに女性向けに新たに開発した商品で、大変薫り高く、上品な味が好評です。

豊かな湧水、四季を彩る雑木林や屋敷林等先人から受け継いだ貴重な自然を風土に「“自然 つながり 活力あるまち” 東久留米」をもっと住みよい、魅力あふれる街にしていこうと、市民、事業者、行政が一緒になって頑張っているところです。

## 2 東日本大震災での被災地支援と震災対応

3 月 11 日に発生しました東日本大地震は、地震のほかに津波、原子力発電所の事故、そして風評被害まで引き起こし、かつてない大災害となってしまいました。発災後、半年が経過しましたが、残念ながらがれきの処分や放射線等の収束は長期にわたる課題となってしまい、復興の道のりは大変厳しいものとなっております。改めて、お亡くなりになりました犠牲者に心より哀悼の意を表し、被害をお受けになりました方々にお見舞い申し上げます。

市内での災害状況及び報告させていただきます。  
市内の被害 5 件でありましたが、幸いにしてケガ人はございませんでした。

内訳は、エレベータ閉じ込め 1 件、  
 道路障害（水道管の漏水） 2 件、  
 屋根瓦の落下 1 件、  
 ブロック塀の倒壊 1 件

また、交通機関が止まったことにより、保育園への児童のお迎えが遅くなったことや、中学校の課外授業でその日のうちに生徒が帰校できなかったケースなどがありました。

東日本大震災に対するこれまでの対応について、

日 時	項 目	具 体 的 な 内 容
3 月 11 日 (金) 14 時 46 分 18 時～22 時 3 月 14 日 (月) 午前零時 15 分 3 月 14 日～	帰宅困難者支援  対策本部設置 情報提供	東北地方太平洋沖地震発生 東久留米市災害対策本部に準じた連絡会を開催 市民プラザを解放、東久留米駅での滞留者調査（約 150 名）  東久留米市災害対策本部を設置 ・東京電力の計画停電について ・公共施設の夜間利用の制限について
3 月 16 日～	義援金活動	・募金箱の設置（公共施設 26 箇所） ・自治会へ募金依頼 ・東久留米駅頭での募金活動（18 日、24 日） ・7 月末日現在の総額 28,400,000 円 〔 企業では 1,000 万円、サークル団体では 130 万円 個人では 40 万円超がそれぞれの最高寄託額です。 〕
3 月 16 日 ～4 月 10 日	避難者の一時受け入れ	福島第一原発事故での放射線関連により、福島県いわき市から一時避難された避難者 28 名（のちに 14 名）にコミュニティホール東本町を提供し、一時受け入れを行った。 毛布、寝袋を提供し、社会福祉協議会及び地域のボランティアの皆様が支援にあたる。
3 月 18 日～	情報提供	・都内の環境放射線測定結果 ・水道水の放射能検査結果 ・市内の農畜産物等の放射能検査結果

3月19日 ～21日	物資支援の受付	社会福祉協議会やボランティアの協力の下、市民プラザ内で市民や団体からの救援物資を受け付けた。寄せられた紙おむつ、カイロ、紙コップ等は段ボールで502箱（4トントラック2台）。
3月22日	物資の運搬	東京都トラック協会多摩支部の協力により、京浜トラックターミナルに搬送し、その後被災地へ搬送
4月27日	物資支援	市長会を通じて、土のう袋2100枚を被災地へ提供
	人的支援の状況 (東久留米市職員)	

派遣日程	派遣先	業務内容	派遣職員数
4月17日～23日	宮城県仙台市	災害廃棄物の収集運搬	9人 (ごみ対策課)
4月24日～30日			
5月1日～7日			
4月28日～5月3日	岩手県大槌町	被災者支援業務	1人
5月6日～11日	岩手県釜石市	避難所運営業務	2人
5月9日～23日	宮城県仙台市	県庁教育事務支援	1人
5月24日～29日	宮城県東松島市	在宅被災者健康調査	1人 (保健師)
5月26日～31日	岩手県釜石市	避難所運営業務	2人
6月17日～20日	岩手県釜石市	避難所運営業務	1人
7月11日～15日	宮城県仙台市	り災証明発行支援業務	1人
7月21日～29日	岩手県釜石市	避難所運営業務	2人
7月24日～31日	福島県いわき市	り災証明発行支援業務	1人
		合計	21人

6月1日～	公共施設の夜間利用の再開について	発災以来、節電のため公共施設等で夜間利用を制限しておりましたが、節電等による電力需給の改善見通しを受け、6月1日(水)から、夜間利用(一部制限あり)を再開いたします。
-------	------------------	---